

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0572609519
法人名	社会福祉法人六郷仙南福祉会
事業所名	グループホーム美郷
所在地	秋田県仙北郡美郷町六郷字本道町57-6 (電話) 0187-84-2223
評価機関名	財団法人秋田県長寿社会振興財団
所在地	秋田県秋田市御所野下堤5-1-1
訪問調査日	平成21年8月4日

【情報提供票より (平成21年7月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算	7.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	8,000 円	
敷金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		900 円	

(4) 利用者の概要 (月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.2 歳	最低	78 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	仙北組合病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、平成16年4月に開設され、街中心部の住宅街に位置する。自然に恵まれて四季を彩る前庭や杉木立に囲まれたホームである。管理者及び計画作成担当者が理念である「安心と尊厳のある生活、ひとりひとりへの自立支援」に基づいたサービス支援の推進役となり、入居者や家族の意見を尊重した支援を行うために職員一同が共に協力し合う体制が整えられている。また、地域との関係においても、老人クラブとの交流、地域行事や子供会行事等に積極的に参加・協力を努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)	改善点無し
	今回の自己評価に対する取組み状況 (関連項目: 外部4)	管理者と職員は、外部評価や自己評価の大切さをよく理解している。委員会を設置し年2回自己評価並びに外部評価について話し合うことにより、具体的な改善点を共有し、サービスの質の向上に努めている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み (関連項目: 外部4, 5, 6)	運営推進会議では、ホームでの生活状況を報告している。会議で示された意見を持ち帰り、職員会議やスタッフ会議等でホームでどのように具体的にサービス向上に反映できるかを話し合いサービス向上に努めている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)	ホーム入居時及び介護支援計画作成並びに更新時に本人と家族の意見をよく聞き、その意見を尊重した生活支援を行っている。また、入居者の生活状況(健康状態、金銭管理等)を毎月送付する際に、ホームでの出来事を「たより」として同封し、入居者の近況を知らせている。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)	ホームは、町内の中心部に位置し、普段から朝夕の挨拶を行うと共に、地域行事や子供会行事等の地域活動に参加し交流を図っている。また、年2回の火災避難訓練を実施するにあたり、地域消防団や老人クラブの参加協力を得て実施されている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「安心と尊厳ある生活、ひとりひとりへの自立支援」というホームの独自の理念をつくり、入居者がその人らしく尊厳を持ち自立した生活を支える支援に努めている。		ホームの理念は、職員事務室とリビングに掲示され、職員間で確認・共有できるようにされているが、その理念を具体的にどのようにサービス提供に実践するのかが職員間で話し合えるよう期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と計画作成担当者を中心に理念の共有とその実践にあたり、「①自分らしい生活」「②ほっとぬくもりのある生活」「③ともに寄り添える生活」「④笑顔があふれる生活」「⑤地域にとけ込む生活」の5つをホームの基本姿勢として職員一同その実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは、街の中心部で住宅地の中にあり、普段から朝夕の挨拶を交わしたり、地区の老人クラブや子供会行事、夏祭り等の地域の行事に参加したり交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と職員は、外部評価や自己評価の大切さをよく理解しており、委員会を設置し年2回自己評価並びに外部評価についても話し合うことにより、具体的な改善点を共有し、サービスの質の向上に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームでの生活状況を報告すると共に、会議で示された意見を持ち帰り、職員会議やスタッフ会議等でホームでどのように具体的にサービスの向上に反映できるかを話し合いサービス向上に努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町担当者には毎月の入居者生活状況を報告している。また、地域行事への参加や年2回の避難訓練時に立ち会っていただき、助言を頂く等、市町村との連携を行いサービスの向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の生活状況（健康状態、金銭管理等）を毎月送付する際に、ホームでの出来事を「たより」として同封し、入居者の近況を知らせると共に担当職員のコメントを添えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム入居時及び介護計画作成並びに更新時に本人と家族の意見をよく聞き、家族が意見を話しやすいような雰囲気を作りその意見を尊重した生活支援を行っている。また、家族からの不満や苦情を受け付ける苦情解決制度についても玄関に掲示されている。		家族は不満や苦情を示すことが難しいと思われるので、家族が苦情や意見を表出しやすいよう、更に工夫される事を期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	介護職員に異動がある場合は、事前に本人や家族に知らせることにより、影響を最小限に抑える努力がなされている。		今後も職員の異動や離職等に対し、ホーム又は法人組織として入居者の受けるダメージを最小限にとどめる為の配慮をどのように行うかを検討し取り決めや利用者に対し考慮がなされるよう期待する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の職員会議で認知症の研修会報告やインフルエンザ予防の話し合いを行い、働きながら学ぶことができるように努めている。また、外部研修に参加するよう研修情報を提供し、自己研鑽に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症グループホーム連絡協議会を通じ、地域の同業者との交流研修会に参加し、相互の情報交換やネットワークを通じサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	ホーム入居時及び介護支援計画作成並びに更新時に本人と家族の意見をよく聞き、本人の意向を介護計画に反映させている。また、入居間もない時は、本人の得意とすることを職員が寄り添い他の入居者と共に行うことにより徐々に馴染みながら、サービス提供や支援が行われている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で、入居者が得意とする分野を自ら進んで行うことができる雰囲気を作り、掃除や食事の支度や後片づけ等をさりげなく職員と一緒にしている。一緒に過ごす時間を多くし、本人から学び、支え合う関係作を大切にして、喜怒哀楽を共有できる関係づくりに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人や家族に生活暦を伺うと共に、本人の希望や意向を確認している。また、意思疎通が困難な場合は、再アセスメントを実施し、家族の意見を聞き本人本位に沿うよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作成するにあたり、本人や家族の意向をふまえ、担当職員の意見を参考にしながら、本人が生活しやすい介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しにあたり、再アセスメントを行い、本人や家族の意向及び職員の意見を考慮し、必要に応じ主治医に相談し意見を求め、現状に即した介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同法人内に複数の施設があり、他の事業所の行事に参加したり、本人や家族の急な外出等にもホームの機能を活かして柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人のかかりつけ医を確認し、定期受診や処方をも本人の希望に添うようにしている。また、近くの薬局とも連携を密にしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた話し合いの中で、ホームでの看取りを望む本人や家族があり、その要望ををふまえて看取りの体制を整備し、その時々に応じた柔軟な支援を行えるよう努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりの生活歴や性格を職員が理解し、その人の尊厳やプライバシーに配慮したさりげない会話がされている。記録は個人情報を考慮し、鍵付き書庫に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての大まかな日々の日課は予定されているが、一人ひとりのペースを優先させて、本人の意向に添った支援を行うよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人ひとりの好みや得意分野を活用して、食材の下ごしらえや味見を行う人、盛りつけを行う人、後片づけを行う人など、一人ひとりが自らの役割を自覚し、職員と一緒に食事の準備や片づけを行うことができるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	曜日や時間帯を決めることなく、入浴時には健康状態をチェックしそれぞれの希望や時間に合わせて、入浴できるように支援している。時には、馴染みの利用者同士と一緒に入浴を楽しむことができるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	リビングでゲームを行ったり、買い物に一緒に出かけたりしている。一日に2回のラジオ体操は好評であり、入居者にとって良い気晴らしとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	アヤマ祭り等の季節を感じてもらう行事に参加したり、週3回の買い出しに利用者も一緒に出かけたりしている。また、本人の希望による散歩にも対応できるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	管理者と職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、居室や日中玄関に鍵をかけないケアを実践している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施している。訓練には地域消防団や老人クラブや法人内の施設等にも協力を得られている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの食べる量や水分量を把握し記録している。入居者の健康状態や好みを考慮しメニューの変更等を行い柔軟に対応している。		栄養学の資格を持った職員もいるが、入居者の栄養管理等を考え、栄養士等による献立の確認ができる体制の整備に期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、入居者にとって不快な音や臭いや過度な採光がないよう配慮されている。リビングには見やすい高さに時計やカレンダーが置かれており、廊下にはアヤマ祭りに出かけた写真が掲示されるなど、季節感を感じさせるよう工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と話し合い、本人の希望で自宅にいた時に使用していた使い慣れたタンスや小物等を持参し、居心地の良い居室となるよう配慮している。		

※ は、重点項目。